

新作  
です!

# スイミー

原作/レオ・レオニ 訳/谷川俊太郎 (好社社刊) 脚色/長瀬円美  
演出/岡本和彦 美術/阿部銀子 音楽・効果/吉川安志 照明/阿部千賀子

大きな魚から一匹だけ逃げのびた小さな魚スイミー。  
悲しみの中、旅に出たスイミーは、さまざまな  
ものに出会い、元気を取り戻し…。



## 若い感性とチームでの新作「スイミー」演出 岡本和彦

プークはどんな「スイミー」を送り出すのか?

演出の手始めにレオ・レオニについて調べていくと、だんだんと明らかになってくることがあります。ユダヤ系のレオの家族は、イタリアからアメリカに亡命しようとするのですが、レオ以外の家族にはビザがおりず、レオはたった1人での旅立ちになったということです。ひとり自由を求め、広い世界に旅立つ姿は「スイミー」そのもの、それは、レオの人生そのものだったに違いありません。

「スイミー」は、孤独の中たくさんのお会いや経験から成長し、大きな力を発揮しますが、さらに私は、海という自分が生きている世界の本当の姿を知ることや、そこにある自由や勇気がとても大切ということに思い当たります。そして、果たして今私たちは、どれほど自分の住んでいる世界を理解し、その本当の姿を知っているのかという命題が浮かび上がります。そこに今回のテーマや、生み出すべく目標が見えてきます。

プークの「スイミー」の脚本は、初めて手がける若い劇団員が出発点になりました。そして、先述のプークの「スイミー」はどうありたいかの検討が半年に及ぶことになりました。さらに美術も、今回初めて担当する若い美術家です。ふたりの感性は、思いもかけないようなアイデアの続出で俳優たちを巻き込み、そのひとつひとつを試演をする中で、スタイルや骨格を、そして素敵な音楽を生み出しました。今回の新作は、チームの力で成し遂げたものだと思っています。

## ヤン助と ヤン助とヤン助と



作/永井鱒太郎 演出プラン/宗方真人  
演出/岸本真理子 美術/星野毅 音楽/長沢勝俊  
照明/阿部千賀子 音響効果/小玉令子

きこりのごんさんは、今日も山の中で木を切っています。そこへ猟師に追われたキツネが逃げ込んできました。「助けてもらったお礼に」とキツネからもらった壺は、ふしぎな壺だったのです。